

仙神宗

仙神寺柳山神社

勤行集

高皇產靈大御神

天之御中主大御神

神皇產靈大御神

瓊瓊杵尊

天照大御神

柳山大山祇大山神

不動明王

大日如来

遍照金剛



目次  
主祭神仏宝号

勤行集 第一節	二
開経偈	三
懺悔文	三
十善戒	四
発菩提心真言	五
三摩耶戒真言	五
光明真言	六
仏説摩訶般若波羅蜜多心経	七
(漢文) 摩訶般若波羅蜜多心経	七
延命十句観音経	九
(漢文) 延命十句観音経	九
不動明王真言大咒	十
続き 祝詞奏上	十二
降神の儀(こうしんのぎ)	十三
祓祝詞(はらえのりと)	十五
祓祝詞(はらへのりと)	十七
神棚拝詞祝詞(かみだなはいしのりと)	十八
大元造化三神報恩之祝詞『現代語訳』(だいげんぞうかさんじんほうおんののりと)	十九
大元造化三神報恩之祝詞(だいげんぞうかさんじんほうおんののりと)	二十
産土神祓祝詞(うぶすなのかみのはらいのりと)	二十二
天津祝詞(あまつのりと)	二十四
柳山山神祓祝詞(やなぎやまやまのかみはらいのりと)	二十五
神言(かみごと) ※言霊の大祓祝詞	二十六
言霊賛祝詞(ことたまたえのりと)	二十九
大祓祝詞(おおはらいのりと)	三十一
続き かたかむなうたひ	三十六
かたかむな 第一首〜第一三首 第八十首	三十七〜五十
(ホツマ伝え) 天津祓(あまつはらえ)	五十一
(ホツマ伝え) 天津祓の意味	五十二

天津祓（あまつはらえ）・・・・・・・・・・・・・・・・五十三

天津祓 吐普加美依身多女の意味・・・・・・・・五十四

天津祓（あまつはらえ）・・・・・・・・・・・・・・・・五十六

国津祓（くにつばらい）・・・・・・・・・・・・・・・・五十六

蒼草祓（ひとあおぐさのはらい）・・・・・・・・五十六

三力の偈・・・・・・・・・・・・・・・・五十七

回向文・・・・・・・・・・・・・・・・五十七

続き 礼拝・・・・・・・・・・・・・・・・五十八

拝礼（はいれい） 二拝 二拍手（祈念）一拝・・五十九

大御神御宝号（おおみかみごほうごう）・・六十

勤行集 第二節・・・・・・・・・・・・・・・・六十一

（漢文）妙法蓮華經觀世音菩薩普門品第二十五・・六十二

（漢文）聖無動尊大威怒王秘密陀羅尼經・・六十六

（漢文）仏説聖不動經・・・・・・・・・・六十九

（漢文）南無三十六童子・・・・・・・・・・六十九

（漢文）南無八大童子・・・・・・・・・・七十

（漢文）稽首聖無動尊秘密陀羅尼經・・七十

不動尊劍功德の文・・・・・・・・・・七十一

不動明王梵字（カーン） 不動明王印・独鈷印・・七十三

不動尊祈経・・・・・・・・・・七十四

密厳院発露懺悔文・・・・・・・・・・七十五

光明真言和讃・・・・・・・・・・七十七

御本尊真言・・・・・・・・・・八十

釈迦如来・・・・・・・・・・

阿弥陀如来・・・・・・・・・・

大日如来・・・・・・・・・・

薬師如来・・・・・・・・・・

千手観世音菩薩・・・・・・・・・・

十一面観世音菩薩・・・・・・・・・・

地藏菩薩・・・・・・・・・・

馬頭観世音菩薩・・・・・・・・・・

聖観世音菩薩・・・・・・・・・・

・・・・・・・・・・



勤行集 第三節	九十一
八正道・三学・五戒	九十二
三学	九十五
五戒	
四苦八苦	
靈格を上げる方法瞑想の仕方	九十六
和ロソクを使用しない瞑想の仕方	百一
内観法	百二
言霊の一番良い唱え方	百四
究極の言霊(天之御中主求聞持法)	百五
結界の造り方	百六
結界印	百七
パワーストポットの造り方	百八
浄化印の色々	百九
九字真言	百十
観想法の除霊法・お祓い	百十五
不動明王の除霊法・お祓い	百十六
かたかむな健康法・治療法・除霊法	百十六
お焚き上げ法	百十八
入魂法	百十九
仏神宗仏神寺柳山神社 由来	百二十
著作権侵害について	百二十三
出版社・出版日等	百二十四

神仏とは、日々の生活の中で、

自然、風景、日々の事象の中から、

肌で感じ、気配を感じ、第六感で感じ、  
全身で感じるものであり、

そして全てを教わる、

それから神仏との対話が始まる。

# 勤行集

## 第一節

かいきようげ

## 開経偈

むじようじんじんみみようほう ひやくせんまんごうなんそうぐう がこんけんもんとくじゆじ がんばげしんぶつしんじつぎ

無上甚深微妙法 百千万劫難遭遇 我今見聞得受持 願解神仏眞實義

(この上、比べるものなく深く尊い、この神仏の教えは、長い時をかけても出会うことは困難であります。)

私は今、幸いにも巡り合い、手にする事ができました。

ただ願うところは、神仏の本当の教えを体得したいものです。(

ざんげぶん

## 懺悔文

がしやくしよぞうしよあくごう かいゆむしとんじんち じゅうしんごいししよしよう いっさいがこんかいさんげ

我借所造諸悪業 皆由無始貪瞋痴 従身語意之所生 一切我今皆懺悔

(私が、過去に行った過ちは、全て、始めもわからない深い貪り、怒り、愚かさの三毒によるものです。)

それは、身体の行い、口の行い、心の行いの、三業から生まれ起きたものです。

全てを、私は今、神仏の教えに、照らされて懺悔致します。(

じゅうぜんかい

# 十善戒

でしむこう じんみらいさい ふせつしよう ふちゅうとう ふじやいん ふもうご ふきご ふあつく

弟子某甲 尽未来際 不殺生 不偷盜 不邪淫 不妄語 不綺語 不惡口

ふりようぜつ ふけんどん ふしんい ふじやけん

不兩舌 不慳貪 不瞋恚 不邪見

(神仏しんぶつの弟子でしとなった私わたしは、未来際むらいさいに至るまで、

いかなる生命せいめいの殺生せつしようを故意こいに致いたしません。

人ひとのものを故意こいに盗ぬすみません。

ふしだらな行為こうゐをしません。

嘘偽うそいつわりを言いいません。

心こころにもない綺麗ぎれいごとを言いいません。

人ひとの悪口わるぐちを言いいません。

信用しんようを失うしなうことを言いいません。

物惜ものおしみせず、欲よくばったりしません。

怒いかり憎にくむことをしません。

業報ごうほう・因果いんが・縁起えんぎ・輪廻りんねの、間違まちがった考かんがえ方かたをしません。)

はつぼだいしんしんごん

発菩提心真言

(三返)

おん ぼうぢ した

ぼだはだやみ

(私は、悟りを求める心をおこします。)

さんまやかいしんごん

三摩耶戒真言

(三返)

おん さんまや さとばん。

(私は、神仏と一体平等であります。)

こうみようしんごん

## 光明真言

(七返・二十一返・百八返・千八十返)

おん あぼきや べいろしやのう まかぼだら

まに はんどま じんばら はらばりたや うん

(自身の身体じしん からだから七色なないろの虹にじの光こうがでていと観想くわんさう(イメージ)して、軽く目を閉じ、「我われと世界せかいの根底こんていから願ねがう、なすべきことげんじつを現実じつこくりやくにする実行力じつこうりやくよ あまねくゆきわたる存在力そんざいりやくよ、生命せいめいに宿やどれる向上力こうじょうりやくよ、自他じたを大事だいじにする、生うみ出す意思力いしりやくよ、苦くるしみを見みのがさない観自在力くわんじざいりやくよ 生いきとし生いけるもの幸さいわいを、生いき生いきと活動かつどうあれ努力どりやくあれ」と念ねんじて唱となえる事こと。)

※観想くわんさうすること、実際じつさいに七色なないろの虹にじの光ひかりが身体からだから放はなたれるようになる。

▲記号きごうが表示ひょうじされていたら、光明真言くわうめいごんを三遍復唱さんぺんふくちやうする事。

(お経は基本、雨がシトシト降る様に、一漢字の字を二拍でよみますので延ばすーが沢山入っております。)  
ぶっせつま かはんにははらみつたしんぎよう

## 仏説摩訶般若波羅蜜多心經

かんじーざいぼーさつ ぎようじんはんにやはーらーみつたーじー  
 しようけんごーうんかいくう どーいっさいくーやく しやりーしー  
 しきふーいーくう くうふーいーしき しきそくぜーくう くうそくぜーしき  
 じゅうそうぎようしき やくぶーにようぜー しやりーしー  
 ぜーしようほうくうそう ふーしようふーめつ ふーくーふーじよう  
 ふーぞうふーげん ぜーこーくうちゅう むーしきむーじゅうそうぎようしき  
 むーげんにーびーぜつしんに むーしきしようこうみーそくほう  
 むーげんかないしー むーいーしきかい むーむーみようやく  
 むーむーみようじん ないしーむーろうしー やくむーろうしーじん  
 むーくーしゅうめつどう むーちーやくむーとく いーむーしよとくこー  
 ぼーだいさつたー えーはんにやはーみつたーこー  
 しんむーけーげー むーけーげーこー むーうーくーふー  
 おんりーいっさいてんどうむーそう くーぎようねーはん  
 さんぜーしようぶつ えーはんにやはーらーみつたーこー  
 とくあーのくたーらーさんみやくさんぼーだい



えんめいじゅつつかんのんぎよう

## 延命十句観音経

かんぜーおん なーむーぶつ よーぶつうーいん よーぶつうーえん  
 ぶつぽうそうえん じょうらくがーじょう ちようねんかんぜーおん  
 ぼーねんかんぜーおん ねんねんじゅうしんきー ねんねんふーりーしん。 ▲

### 延命十句観音経

えんめいじゅつつかんのんぎよう

かんぜーおん

なーむーぶつ

よーぶつうーいん

よーぶつうーえん

ぶつぽうそうえん

じょうらくがーじょう

ちようねんかんぜーおん

ぼーねんかんぜーおん

観世音 南無仏 与仏有因

与仏有縁 仏法僧縁

常楽我常

朝念観世音

暮念観世音

ねんねんじゅうしんきー

ねんねんふーりーしん

念念従心起

念念不離心



※この不動明王大咒の真言は、しつこい悪霊除霊の時に使う真言である。

強烈に、悪霊を弾き飛ばす事が出来る。必ずページ表記の、独鈷印を手に作り握りしめ、不動明王を想念し

（不動明王と書いて見つけても良い。又は、梵字のカーンを想像してもよい。参照）、真言を三回以上唱える事。

憑いている悪霊が、あなたにしがみ憑く、その手の指が、逆にねじ曲がり、折れていく。

悪霊が怪我をする為、あまり、使わない事をお勧めする。

不動明王印 独鈷印



不動明王梵字（カーン）



ふどうみようおうしんごんたいしゆ

# 不動明王真言大咒

※礼をして、不動明王の字を思い浮かべるか、梵字を思い浮かべる。不動明王の像を見つめる。

ふどうみようおうさま ただい きせき ちから も

不動明王様、多大なる奇跡の力を以って、

わたし ふ そそ すべ わざわ

私に降り注ぐ、全ての災いを、いつも、食らいつくし、焼きつくして、

くだ ありがと ござ

下さいますして、誠に有難う御座います。

※独鈷印を必ず結ぶ

なうまく さらば

たーぎやていびやく (二合)

さらば ぼつけいびやく (二合) さらばた

たら (二合) だ (半音)

せんだ まかろしやだ

けんぎやーきぎやーき

さらば びきんなん (二合)

うんたら (二合) たー かんまんー。 ▲

続き

祝詞奏上

先ずは神様をお呼びする。

## 降神の儀（こうしんのぎ）

# 二拝 九拍手

※二拝九拍手（祈念）一拝は、最高神、天之御中主大御神様に捧げる最も良い数である、九は最高の数であるがゆえに、最高神を呼ぶのに最も良い数、九回の拍手打つ。

本當の御名前は、ミナカヌシ様ですが、アメノ、アマノは、総称です。

アメノミナカヌシオオミカミ、アマノミナカヌシオオミカミと呼ばれているが、どちらも正解の呼称であります。アマノミナカヌシオオミカミと唱えても、ミナカヌシと唱えても効果あり。

あまのみなかぬしおおみかみ

あまのみなかぬしおおみかみ

あまのみなかぬしおおみかみ

とゆっくり三回唱え、

み な か ぬ し  
 み な か ぬ し  
 み な か ぬ し

とゆっくり三回唱えて、唱えた後に、

○あーと、一息でゆっくり唱える。○あーと、一息でゆっくり唱える。○あーと、一息でゆっくり唱える。○あーと、一息でゆっくり唱える。

※みなかぬしと、一息で約15秒(約二十一回)唱え×六回唱える事も大事である。

一 拜

※神前に立ち、祝詞を奏上する時、先ず二拝し、次の被祝詞と神棚拝詞祝詞を奏上する。

## 被祝詞（はらえのりと）

かけまくも かしこき いざなぎの おおかみ

つくしの ひむかの たちばなの おどの

あわぎはらに みそぎ はらひ たまふ ときに なりませる

※山吹色文字は、読まない、※黒文字だけ読むこと。

※衣服を脱いだ時に成った神々

※杖 つきたつ ふなどの かみ

※袋 ときおかしの かみ

※袴 ちまたの かみ

※左腕輪 おきぎかるの かみ

※左腕輪 おきつかひべらの かみ

※右腕輪 へつなぎさびこの かみ

※帯 みちのながちはの かみ

※衣 わつらひのうしの かみ

※冠 あきぐひのうしの かみ

※左腕輪 おくつなぎさびこの かみ

※右腕輪 へぎかるの かみ

※右腕輪 へつかひべらの かみ

※潮流の中流で清めた時に、黄泉の国の穢れから成った神々

やそまが つひの かみ おおまが つひの かみ

※そのわざわいを直すために成った神々

かむな おひの かみ おおな おひの かみ いづのめの かみ

※潮流の底で清めた時に、成った神々（上記三神||綿津見三神 下記三神||住吉三神）

そこつ わたつみの かみ そこつ つのおの かみ

※潮流の中程で清めた時に、成った神々

なかつ わたつみの かみ なかつ つのおの みこと

※潮流の表面で清めた時に、成った神々

うわつ わたつみの かみ うわつ つのおの みこと

※最後に顔を洗った時に成った神々（三柱のうずのみこ||三貴子）※黙読する事。

※左目 あま てらす おおみかみ ※右目 つくよみの みこと

※鼻 たけはやすさのおの みこと

はらえど よはしらの かみたちと ともに もろもろの まがこと  
 つみ けがれを はらひ たまひ きよめ たまふと もうす ことを  
 きこしめせと かしこみ かしこみも もおす

※神前に立ち、祝詞を奏上する時、先ず二拝し、次の被祝詞と神棚拝詞祝詞を奏上する。

## 被祝詞（はらへのりと）

かけまくもかしこき いざなぎのおおかみ

つくしのひむかのたちばなのおどの

あわぎはらにみそぎはらひたまひしときに

なりませるはらへどのにじゅうろくしんの おおかみたち

もろもろの まがごと つみけがれ あらむをば

はらひ たまひ きよめ たまふと まをす ことを

きこしめせと かしこみ かしこみも もおす